

2025年度夏期海外チャレンジ研修・ガチヨン大学サマープログラム参加者報告

学生氏名	派遣国・期間	目的概要	1. 海外体験によって自己成長した点	2. 海外体験から学んだ点	3. 海外体験によって変化した点	4. 海外研修体験の効果
学生1	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語に自信がなく、不安を抱えたまま参加した留学であったが、英語だけを使う環境に身を置いたことで、自分から話そうとする姿勢と自信が身についた。最初は1対1の授業に強い緊張を感じていたが、徐々に慣れ、前向きに学習に取り組めるようになつた。	完璧な英語でなくても、ある程度の単語や文法があれば相手に伝わり、コミュニケーションが成立つことを実感した。これまで学校で学んできた英語が実際に役立つことを体験し、英語学習の意味を改めて理解する機会となつた。加えてセブ島でのトレイなど生活習慣や社会状況の違いを通して、国や地域によって置かれている環境が大きく異なることを学んだ。	自分の言いたいことを十分に伝えられないもどかしさを感じたことで、帰国後は英単語学習に自主的に取り組むようになった。また、外国人との会話への抵抗が減り、学内の留学生とも積極的に英語で話すようになるなどの行動の変化あつた。	語学面だけでなく、生活習慣や文化の違い、発展途上国ならではの社会状況にも触れ、視野を広げる経験ができた。今回の経験を通して、さらに語学力を高め、将来的にはカナダなどでの長期留学にも挑戦したいという新たな目標を持つようになつた。
学生2	フィリピン・セブ島 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語での授業やディスカッションやリスニングなどの英語コミュニケーションに強い不安を抱えた状態で研修に参加したが、授業や日常生活を通じて「受け身ではなく主体的に取り組む姿勢」を身につけることができた。特に、発言できなかつた悔しさを次の行動につなげ、後半には自分から質問や意見を見述べられるようになつた点に大きな成長を感じている。	英語力は一度で大きく伸びるものではなく、日々の復習や小さな努力の積み重ねが重要であることを学んだ。また、英語力テストを通して、自身の成長を客観的に確認できることで、努力の方向性を見直す機会にもなつた。課題が明確になると自分が次の学習につながると実感した。	以前は単語を並べるだけの発話が中心だったが、簡単な文を組み立てて会話を続けるようになり、スピーキングへの抵抗感が大きく減った。リスニング面でも、「聞き取れない」という不安から、「要点をつかもうとする」姿勢へと意識を変えることで、日常的な簡単な文でやり取りを続けるようになり、日常的な場面では自信を持って英語を使えるようになった。	英語力の向上だけでなく、海外で生活することへの不安が軽減され、1年後に予定しているワーキングホリデーに向けた具体的な準備意識が高まつた。帰国後も英語学習を継続しており、「挑戦すれば成長できる」という実感を今後の学習と海外挑戦への原動力としている。
学生3	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	2週間のセブでの生活を通して、人見知りだった自分が、以前よりも積極的に人と話しかける姿勢が身についた。現地では、街中や店先で知らない人と自然に会話を生まれることが日常的で、自分からコミュニケーションをとろうとする意識が生まれた。また、限られた英語力の中でも「伝えよう」と工夫し続けることができた。	言葉が十分に通じなくても、相手に伝えようとする姿勢が大切であることを学んだ。リスニングが苦手で会話についていけない場面も多かつたが、毎日英語に触れることで徐々に聞き取れるようになり、分からぬ単語は調べたり質問したりすることで理解を深めることができた。また、セブでの生活を通じて、日本では当たり前だと思っていた安全な水や整った生活環境のありがたさを実感した。	英語に対する苦手意識が和らぎ、英語を使うことへの自信が少しずつ芽生えた。最初はリスニングについていけなかったが、毎日英語を聞く環境の中で徐々に慣れ、会話を楽しめるようになった。また、安全な水や整備されたインフラのありがたさを強く実感するなど、世界には自分の知らない現実や価値観が多く存在することを実感し、物事を多角的に考える視点が身についたと感じている。	発展途上国ならではの生活環境や社会状況を実際に目にすることで、日本の良さと異文化の価値の両方を実感し、フィリピンの厳しい生活環境やストリートチルドレンなどの現実に触れたことは簡単な経験ではなかったが、世界の多様さと日本の良さを考える貴重な学びとなつた。また、アイランドホッピングやジンベエザメと泳ぐフィリピンの大自然に触れるアクティビティを通して、今後も海外に挑戦したい、英語をもつと学びたいという前向きな意欲が高まつた。
学生4	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	初めて受験したTOEICで500点を超えたことをきっかけに、「読む・聞く」だけでなく英語で話す力に自信をつけたいと考え、セブ島での短期語学研修に参加した。海外で実際に英語を使う環境に身を置き、自分自身を成長させたいという強い動機を持って研修に臨んだ結果、帰国後には地震をもつて話せるようになつたこと、次の目標を持つことが出来た。	マンツーマン授業を中心に、積極的にアウトプットを重視した学習を行つた。授業以外の空き時間にも、ホテルに戻らず教師に自ら話しかけるなど、英語を使う機会を増やす工夫をしていた。また、英語を通してビザや語を学んだ経験から、「英語で別の言語を学ぶと理解しやすい」ことを気づいた。授業内外での交流や、スピーチ発表を通じて、英語で自分の考えを伝える経験を積んだ。	英語が思うように話せず苦戦する場面もあったが、単語だけでなく正しい文で話すこと意識することで、徐々に話すことへの抵抗が減り、自信がついた。また、授業や現地ツアーを通じて、フィリピンの文化や社会問題、スラムでの人々の温かさなど、日本では得られない学びを体験した。「英語で伝える」というセブの学校での経験と成功体験が、外国人と話したいという前向きな意識の変化につながつた。	帰国後、外国人との英語でのやり取りを通訳できた経験から、自分の成長を実感した。現在はTOEICのさらなるスコア向上を目指し、将来の目標であるパイロットになるために英語学習を継続している。また、次回はインターンとして再びセブ島を訪れ、より実践的な英語運用力を身につけたいと考えており、今回の研修が継続的な学習意欲と行動につながっている。
学生5	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語がほとんど聞き取れない状態から始まり、繰り返し授業を受ける中で徐々に英語のスピードに慣れ、聞き取れるようになつた。また、単語だけで話す癖を改め、文で話すことを意識するなど、自分なりに工夫しながら学習に取り組めるようになつた。	分からぬ単語や表現は、そのままにせず調べたり発音を練習したりすることで、少しずつ理解が深まる学んだ。また、小さな努力の積み重ねが、相手に伝わる英語につながること、そして学び続ける姿勢の大切さを実感した。	英語に対する苦手意識が薄れ、「もっと勉強したい」という前向きな気持ちが生まれた。これまで使えなかった英語表現を授業後に復習して、使えるようになった時、先生が成長を喜んでくれた経験が自信につながり、帰国後も英語を使いたいと考え、積極的に英語の授業を履修するようになった。	初めての海外生活を通して、語学力だけでなく、主体的に学ぶ姿勢が身についた。短期間であつても、工夫しながら学ぶことで確かな成長を感じることができ、今後の大学生活における英語学習への意欲を高める貴重な経験となつた。
学生6	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語に自信がなく不安を感じていたが、毎日英語を使う環境で過ごすうちに、間違いを恐れず自分の言葉で伝えようとする姿勢が身についた。授業だけでなく日常生活の中で自分から話しかけたり行動したりすることで、英語で話すことへの抵抗が減り、積極性が高まつた。	文法や表現が完璧でなくても、「伝えたい」という気持ちや工夫があれば相手に伝わることを学んだ。また、現地の人々との交流を通じて、セブ島の人の明るさや優しさ、家族や友人を大切にする文化に触れ、異文化への理解が深まつた。	英語で話すことへの不安が減り、英語を使ったコミュニケーションを楽しめるようになった。以前は緊張して話しかけられなかつた場面でも、自分から英語で注文したり道を尋ねたりできるようになり、行動への自信が生まれた。	語学力の向上だけでなく、自分の考えを伝える力や新しいことに挑戦する勇気が身についた。短期間の留学であつても、海外で生活し行動した経験が、今後も積極的に関わり、視野を広げていくための大きなきっかけとなつた。
学生7	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語を話す際に間違いを恐れず、「とにかく伝えよう」と行動できるようになつた。留学当初は緊張から言葉が出てこなかつたが、毎日英語を使う生活中で徐々に慣れ、自分の考えを英語で表現する力と自立心が身についた。	英語は正確さだけでなく、相手に伝えようとする姿勢が大切だと学んだ。マンツーマンやグループ授業、日常生活での会話を通じて、実践の中で英語力が伸びることを実感した。また、異文化の価値観や考え方方に触れ、柔軟に物事を受け止める姿勢の重要性を学んだ。	英語に対する苦手意識が薄れ、積極的に会話に参加できるようになった。授業や日常生活の中で自分から意見を伝える機会が増え、帰国後も英語に触れる時間を意識的に確保するなど、学びに向かう姿勢が前向きに変化した。	短期間であつても、英語を使って生活する経験が自信につながり、今後の学習意欲を高める結果となつた。英語力だけでなく、行動力や異文化理解力も養われ、将来CAなどの英語を使って国際的な職業で働きたいという目標をより具体的に考えるきっかけとなつた。
学生8	オーストラリア・シドニー 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	初めて一人で海外へ渡航し、飛行機の乗り継ぎや現地での移動、ホームステイ生活など、4週間のシドニーライフを経験する中で、自立心と行動力が大きく成長した。最初は不安や寂しさを強く感じていたが、次第に環境に慣れ、自分から行動できるようになつたことで精神的にも強くなつたと感じている。	シドニーでの生活を通して、人との距離の近さや声をかけ合う文化、相手を気遣う言葉の大切さを学んだ。店員や街の人々が自然に話しかけてくれる環境の中で、海外ならではのコミュニケーションのあり方や、人の温かさに触れることができた。	当初は外国人に話しかけることに緊張していたが、生活や学校での交流を重ねる中で、自分から話しかけられるようになつた。また、英語に対する苦手意識が薄れ、自分の得意・不得意が明確になり、今後さらに学びたいという意欲が高まつた。	語学力の向上だけでなく、国内外に多くの友人ができ、人とのつながりの大切さを実感し、日本の暮らしや家族や先輩などに感謝ができるようになつた。今回の留学を通して将来像が明確になり、今後は英語学習を継続し、ワーキングホリデーへの挑戦を目指すなど、次の目標につながる大きなきっかけとなつた。
学生9	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語を話すことに強い苦手意識があつたが、完璧でなくとも「とにかく伝えよう」と行動できるようになつた。毎日現地の人と英語で会話する目標に取り組む中で、自分から質問したり話しかけたりする勇気が身につき、英語に対する自信が少しずつ育つた。	英語は教科として学ぶだけでなく、実際に使うことで身につくということを実感した。マンツーマン授業を通して、日常会話でよく使われる表現を繰り返し練習し、「こう言えば伝わる」という感覚をつかむことができた。また、異なる文化や生活環境に触れることで、自分の当たり前を見直す視点も得た。	英語を話すことへの抵抗感が大きく減り、「もっと話したい」「もっと英語を使いたい」という前向きな気持ちに変化した。留学前は不安が先立っていたが、帰国後はオンライン英会話に取り組むなど、自ら英語を使う機会を作ろうとする姿勢が定着した。	短期間であつても、集中的に英語を使い、海外で生活した経験が、学習意欲の向上につながつた。英語で人とつながる楽しさを実感し、今後は英語を使って海外の人々と協働したり、ボランティア活動に関わったりしたいという目標を持つようになった。
学生10	フィリピン・セブ島 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	初めての海外渡航で不安が大きい中、仲間や現地の先生、友人と協力しながら行動することで、協調性の大切さを強く実感した。困ったときに助け合い、空き時間も一人で過ごすのではなく積極的に人と関わることで、不安を乗り越え、自分自身の成長を感じることができた。	書く英語と話す英語には違いがあり、実際に話そうすると単語が出てこないという課題に気づいた。簡単な文で話すこと、まずは聞き取ることに集中するとの大切さを学び、短期間でも学習の工夫次第で力が伸びることを実感した。また、拙い英語でも相手に伝えようとする姿勢があれば、周囲が親身になってわかるまで話してくれるフィリピン人の優しさが素晴らしいと思った。	英語に対する苦手意識が薄れ、「間違ても話してみよう」という前向きな姿勢に変化した。最終日の英語テストで学習の成果がスピーキングとリスニングのテスト結果が良かったので、自分の努力が形になることへの自信を持つようになった。	2週間という短期間でも、目標を持って取り組めば語学力が向上することを実感できた経験となつた。この成功体験により、今後も努力を続ける意欲が高まり、語学学習だけでなく、将来の就職活動など次の目標に向けて前向きに取り組む姿勢につながつている。
学生11	嘉泉大学校サマープログラム 2週間	語学学習・異文化コミュニケーション	韓国・嘉泉大学校のサマープログラムに参加し、異なる文化や価値観の中で生活・学習したことで、自分から行動する力が大きくなつた。特に、最初は緊張や戸惑いから消極的になつたが、勇気を出して挨拶や会話を自分から始めて、交流関係を築けるようになった点は大きな自己成長である。2週間という短期間でも、行動次第で人間関係を深められることを実感した。	最も印象に残つた学びは、韓国の学生たちの授業に対する姿勢である。日本人向けの授業であつても、積極的に発言し、問い合わせに対しては結論だけでなく理由や結論までの過程を説明して自分の意見を伝えている。その姿勢から、「ただ聞く」のではなく、「参加する学び」の重要性を学んだ。また、文化や言語が異なつても、誠実に向き合い、意見を交わす姿勢が相互理解につながることを学んだ。	海外研修を通して、受け身だった自分の姿勢が変化し、積極的に交流しようとする意識が芽生えた。最初は話しかけることに不安を感じていたが、自分から行動することで関係が深まり、帰国後も再会するほどの信頼関係を築くことができた。この経験により、言葉や文化の違いを恐れず、一歩踏み出すことの大切さを実感した。	本研修は、今後の大学生活や将来に向けた姿勢を見直す大きなきっかけとなつた。授業では主観的に考え、説得力のある意見を持つことを意識し、人との関係においては自分から行動することを心がけたいと考えるようになった。また、AKVなど外国の方と関わるボランティア活動においても、本研修で得た経験や姿勢を活かせると感じている。今後も積極的に学び、行動し続けたい。